

2021年9月22日

椎葉の歴史を
興味深く読む

酒井ミツ子 79

「椎葉の歴史物語」の著者は、西都市の元教師で住職でもあった新山芳彦氏で

(都城市)

ある。椎葉といえは「鶴宮姫と那須大八郎の悲恋物語」。壇ノ浦の戦いで敗れた平家の落人たちが深山幽谷の厳しい奥山の椎葉まで逃れて住み着いた。そこからさまざまな悲劇が生み出された。

本書は、それ以前の縄文時代から江戸時代まで椎葉の人々の衣食住の生活の様子がつづられ、私たちの祖先の暮らしが垣間見えて興味深く読んだ。

学生時代の日本史はテスト勉強の知識程度、成人し

てからは本や大河ドラマで時代の背景など少しは内容が深まった。しかし、政治の中心地・奈良、京都、鎌倉、江戸の人々の暮らしは形式的で表層の部分しか見えない。まして、遠く離れ

た末端の地では、中央の厳た。しい行政にいかに対応して生き延びてきたのか知る由もない。でも、平家の落人の特別な地・椎葉の歴史を通して、私たちの祖先が塗炭の苦しみと戦いながら生き続けてきたのか見えてき

た。おかげで私の好奇心は満たされ感謝である。彼の椎葉に対する深い愛情と探究心には感服した。

悩みは密

雇用からワクチンまで多種多様な宮崎労働局などへのコロナ相談



宮日戯評

宮崎まんがグループ